

山形県主催シンポジウム傍聴参加記録

題 名：シンポジウム「美しいやまがたの海をめざして」

日 時：平成 19 年 11 月 4 日（日）14：00～17：00

場 所：東北公益文化大学内 酒田市公益研修センター「公益ホール」
（酒田市飯森山 3-5-1）

配布資料：シンポジウム次第パンフレット（A3 カラー折込み）

シンポジウム参加者の発言主旨等ペーパー（5 名）

株式会社ケンウッド「社会・環境報告書 2007」（A4 カラー48p 冊子）

参加者：120 名ほど

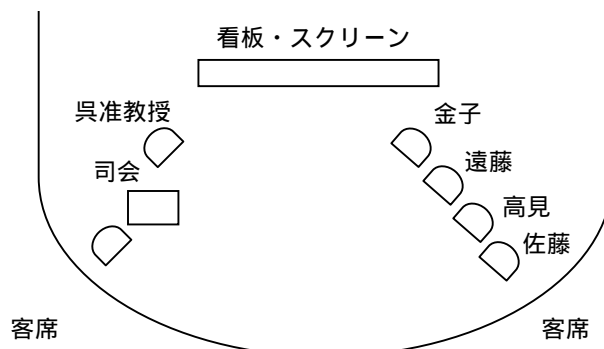
シンポジウム議題進行

14：00 主催者あいさつ 山形県庄内総合支庁長 高橋 節

14：08 第 1 部討議参加者の紹介

14：10 第 1 部「やまがた」から発信する新たな協働のかたち

14：10～14：12 呉 尚浩コーディネーターによる会の目的・取り組み説明



14：13～14：24 鶴岡市由良自治会 遠藤会長による由良自治会の漂着ごみへの取り組みについて紹介

今後の課題として

- | | |
|-------------------|-------------|
| 1. 近隣諸国との協力 | 国外漂着物対策の連携 |
| 2. 流木の処理（再利用を含めた） | 大木の処理困難 |
| 3. 漁網・ロープの処理 | 大木同様処理困難 |
| 4. 漂着ごみの処理窓口 | 相談の持っていくところ |

14：25～14：35 (株)山形ケンウッド高見社長による地域連携活動への取り組みについて紹介

地域で行われるクリーンアップ活動に 2002 年以降参加している。2007 年 9 月 29 日には赤川河口で清掃活動を実施。100 名ほどで、可燃物 170 袋、不燃物 60 袋を回収した。地道に継続していきたい。

調査区画を設置して分類回収も実施した。

美しい山形を後世に残していくためにプラットフォームにも協力していきたい。

14 : 35 ~ 14 : 41 NPO 法人パ・ナ・シップ・オ・イス 金子理事による活動の紹介

現状は、最上川中流の人口多いところから流出するゴミが海岸に多く見られる。山形県は海岸当たりのゴミ量が一番多い。

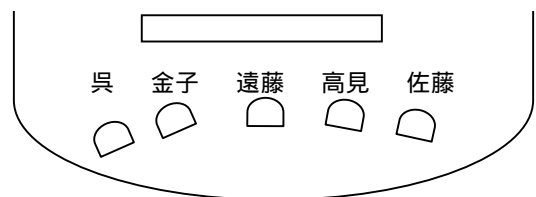
- ・最上川河口クリーンアップ作戦・クリーンアップ庄内海岸
- ・飛島クリーンアップ作戦
- ・水辺の散乱ゴミ評価手法 などの活動紹介。

流出し続けるゴミへの対策が遅れているのが現状であるが、わずかでもごみ流出を防ぐ取り組みが行われている。

14 : 42 ~ 14 : 48 山形県庄内総合支庁 佐藤部長による行政側の取り組み紹介

- ・庄内海岸への漂着量試算約 600 トン/年ある
- ・漂着物回収の取り組みとして
NGO・ボランティアとの協働活動を行っている。
- ・発生抑制の取り組みとして
内陸地域との連携啓蒙活動を行っている。
- ・問題解決の取り組みとしてを行っている。
情報発信と実態把握の行動
- ・国に対して、制度整備等の要求活動
- ・プラットフォーム形成に努める

14 : 49 ~ 15 : 02 テーマに対する討議



【高見】企業のなかの教育活動の一環として、環境保全のごみ処理を意識している。一企業のパフォーマンスとしてではなく、全体の活動としてプラットフォームを位置付けたい。

【遠藤】由良の住民は協力的な活動が行われている。流木・漁網・ロープを処理できるようになるとありがたい。県が地域を回りながら、処理してもらいたい。

【金子】これまでの活動成果として、ごみの意識が各主体で高まってきた。話し合う場が行政・研究者・NPO 間で出

来てきていると思っている。

【佐藤】集められたごみ処理に対して課題が解決できていない。

指摘されたことも解決する必要性は認識している。

地域に協力して協働できる体制づくりに努めたい。

15:05 活動報告「漂着ごみからつながる島々の交流」東北公益文化大学生
林・阿部・高橋・佐藤

15:21 休憩

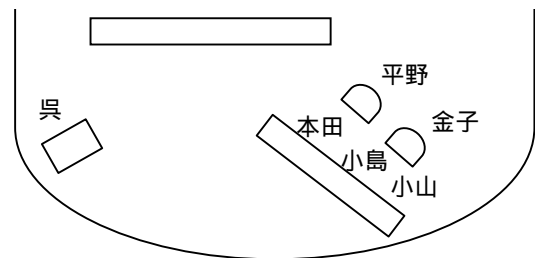
15:30 第2部「これからの海洋環境保全を考える」

基調講演「海洋基本法をめぐる動き」内閣参事官 本田 直久

15:30～15:53 内閣官房総合海洋政策本部とは、海関係行政府省の調整役。現在「海洋基本計画」を策定中。本部には行政の執行権限はない。来年度の概算予算を要求している。

15:55 テーマに対する討議

海のことを考えていくうえで、何が問題になっているかを幅広く討議していきたい。



【小島】JEANの提案2007の主旨について

「目の前のごみを片付けるだけでは限界がある」

「NPO・NGOが社会的成果を挙げやすいシステムづくり」

「地域の声をまとめる役割をJEANが行うことは有効」

【小山】酒田港女みなと会議とは、港の整備・利用に関する提言の活動団体。港のPR活動だけでなく、清掃活動にも関連している。

【平野】美しい山形-最上川フォーラム-の活動について

最上川の水質検査、クリーンアップ活動、歴史、桜植樹活動をしている。流域の認識が薄く、ネットワークの形成が重要。

【金子】海の問題は、内陸の人間活動とも合わせて考えるべき。国際的にも国内的にも必要な考え方。

【小山】台風・大雨時に大量の木片が流出する。山の植林営林管理の不足が原因だろう。

【呉】みなと、山、河が繋がっていることが指摘された。若い人

の活動についてはどうか。

【平野】大学院生の立場で事務参加。財源確保できると運動が続けられる。

楽しい気持ちで活動できると続けられる。

【小島】意志ある人の受皿は貧しい現状である。新規加入の人材がないと団体活動が疲弊する。本来の姿を取り戻し、そこから地域の活動を起したい。

【本田】日本人の気質として「水に流して終わらせる」、「水浴びで清める」があって、これが改まらないと解決できない。何とかしなくてはならない。海洋担当者となれば「海に廃棄しない」という立場にある。

【会場】酒田港事務所だが、海洋基本法の扱いで罰則規定はでてくるか。外国からの漂着ゴミ対策は、他国への働きかけはどうか。

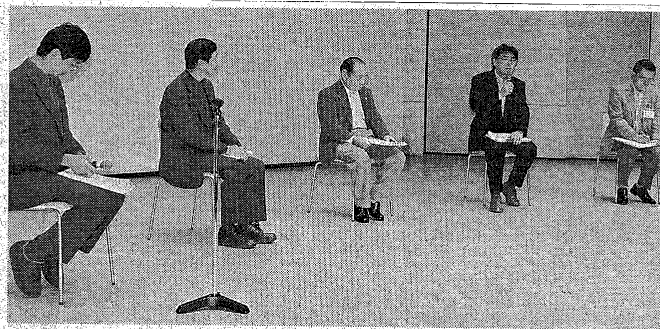
【本田】罰則は所管省庁の法律内の扱いであり、除外するものではない。漂着ゴミの実態を把握するのが第一である。働きかけは申入れを行うのが実情。取り組みを行っていくことは認識している。

【会場】海洋基本法のなかで NGO はどう考えているか。海浜植物（グンラン）の保全も地域活動に重要と思う。

【本田】国の施策の遂行に NPO・NGO の活動を取り入れるのは、現在の流れである。団体、自治体、住民、国がそれぞれの分担でできることをやるのが基本。

【小島】全ての人が当事者意識を持って活動するのが何よりも重要である。お互いの立場を理解して議論を深めていきたい。

16 : 55 総括まとめ



海岸清掃などに取り組む団体や企業の代表者らが海洋漂着ごみの問題について話し合ったシンポジウム
＝酒田市公益研修センター

「美しいやまがたの海」へ 漂着ごみ問題考える

酒田でシンポ

県内総合支庁が主催するシンポジウム「美しいやまがたの海をめざし」が四日、酒田市公益研修センターで開かれ、まがたの海推進事業の一環として初めて開催された。海岸清掃などを展開する団体や企業の代表者らが活動報告し、海洋漂着ごみの問題について話し合った。

同支庁が二〇〇七年度から取り組む「美しいやまがたの海推進事業」の約百人が聴講した。

酒田市内の金子博理事、鶴岡市由良自治会の遠藤勝雄会長、山形ケンウッドの高見康彦社長、県内総合支庁の佐藤俊悦保健福祉環境部長がそれぞれ活動を紹介し、意見交換した。

この中で「漂着ごみの

中にはハンケルが記された製品もあり、近隣諸国との連携も必要ではないか」「海洋漂着ごみの六七八割を占めるという河川からのごみを防ぐため、内陸での河川敷清掃を推進していくべきだ」などの意見が出た。

二部では、内閣官房総合海洋政策本部事務局の本田直久内閣参事官が、今年七月に施行された海洋基本法について解説するなどした。

シンポジウム

美しいやまがたの
海をめぐって
Beautiful Yamagata Sea

平成
19年

11月4日(日)

14:00~16:50

酒田市公益研修センター「公益ホール」

【東北公益文科大学内】

次 第

開 会

開会のあいさつ

山形県庄内総合支庁長…………… 高橋 節

総合コーディネーター

東北公益文科大学准教授…………… 呉 尚浩氏

第 1 部

「やまがた」から発信する新たな協働のかたち

討議①

特定非営利活動法人パートナーシップオフィス 理事…………… 金子 博氏

鶴岡市由良自治会 会長…………… 遠藤 勝雄氏

株式会社山形ケンウッド 取締役社長…………… 高見 康彦氏

山形県庄内総合支庁保健福祉環境部長…………… 佐藤 俊悦

活動報告

「漂着ごみからつながる島々の交流」

東北公益文科大学大学院生…………… 林 久美子氏

第 2 部

これからの海洋環境保全を考える

基調報告

「海洋基本法をめぐる動き」

内閣官房総合海洋政策本部事務局内閣参事官…………… 本田 直久氏

討議②

内閣官房総合海洋政策本部事務局内閣参事官…………… 本田 直久氏

JEAN/クリーンアップ全国事務局 代表…………… 小島 あずさ氏

酒田港女みなど会議 事務局長…………… 小山 恵子氏

エンディング

「庄内浜の夕陽」

写真家…………… 村田 博行氏

プロフィール

東北公益文科大学 准教授

呉尚浩 *Naohiro Go*

名古屋市に育つ
慶応義塾大学大学院経済学研究科博士課程修了
専門は、公益学と環境社会学
2001年 東北公益文科大学専任講師
2005年4月から現職
他に大学コンソーシアムやまがた地域活動部会長など

特定非営利活動法人パートナーシップオフィス 理事

金子博氏 *Hiroshi Kaneko*

長野県出身
東京都自然環境保護審議会委員等を担いながら、
河川や湧水等の水環境保全を中心とした市民活動に関わる。
1997年 酒田市に転居
水辺の散乱ゴミ等の指標評価手法の開発やクリーンアップ活動の企画運営など、
主に海洋ごみ問題に取り組む。
現職の他に特定非営利活動法人全国水環境交流会理事など

鶴岡市由良自治会 会長

遠藤勝雄氏 *Katsuo Endo*

2007年4月から現職
他に鶴岡市衛生組織連合会会長
庄内地区衛生組織連絡協議会会長

株式会社山形ケンウッド 取締役社長

高見康彦氏 *Nasukiko Takami*

長野県出身
1991年 (株)長野ケンウッド入社
2003年 (株)ケンウッド入社 生産革新推進本部生産革新プロジェクト長
2004年 (株)長野ケンウッド取締役社長
2006年10月から現職

内閣官房総合海洋政策本部事務局 内閣参事官

本田直久氏 *Naohisa Honda*

石川県出身
1980年 京都大学農学部水産学科卒業後、水産庁入庁
2007年7月から現職

JEAN/クリーンアップ全国事務局 代表

小島あずさ氏 *Azusa Kojima*

東京都出身
1987年 「アトリエクレイドル」設立
資源保護・ゴミ減量のための買い物袋を日本で初めて企画販売
1991年 JEAN/クリーンアップ全国事務局設立
海のごみ問題に取り組む環境NGOとして活動
国際海岸クリーンアップ(ICC) ナショナルコーディネーター

酒田港女みなと会議 事務局長

小山恵子氏 *Keiko Koyama*

1982年 一級建築士事務所 章夢 開設
1997年 酒田港女みなと会議の一員に加わり活動を始める。
他に(社)山形県建士会常務理事など

写真家

村田博行氏 *Hiroyuki Murata*

1989年からフリーの写真家として活躍
村田写真事務所ウエーブモーション代表
鶴岡市在住

Beautifully Young Japan Sea



MURATA'S PHOTOGRAPH

写真 村田 博行



シンポジウム
美しいやまがたの
Beautiful Yamagata Sea
海をめぐらして

- (主 催) 山形県庄内総合支庁
(共 催) 鶴岡市、酒田市、遊佐町、庄内町、三川町、東北公益文科大学、美しい山形・最上川フォーラム
(後 援) 環境省東北地方環境事務所、国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
国土交通省東北地方整備局酒田港湾事務所、酒田海上保安部
JEAN/クリーンアップ全国事務局、山形新聞・山形放送、荘内日報社